



# むぎの郷

October 2013

つうしん

発行/麦の郷情報管理委員会  
 〒640-8301 和歌山市岩橋643  
 TEL(073)474-2466 FAX(073)473-0430  
<http://www7.ocn.ne.jp/~ichibaku/>

ソーシャルファームピネル/くろしお作業所/くろしお作業所分場/  
 麦の郷訪問看護ステーション/居住福祉事業所/はぐるま共同作業所  
 /はぐるま共同作業所 和の杜/はぐるま共同作業所 ラ・テール/  
 障害者就業・生活支援センター「つれもて」/ホームヘルプ麦の郷/  
 麦の郷 和歌山生活支援センター/けいじん舎/麦の郷印刷/麦の郷  
 紀の川・岩出生活支援センター/ハートフルハウス 創/むぎピース  
 /障害児者サポートセンター「麦の郷」/こじか園/第二こじか園/  
 こじか親子教室/麦の郷高齢者地域生活支援センター/事務所  
 麦の郷障害者地域リハビリテーション研究所



きょうされん大会 IN 福島 9.21 (土)



わされん運動会 10.5 (土)



立山登山(結い) 9.1(日)~9.3(火)



## 私たちのめざすもの ~麦の郷4つの理念~

- 1).麦の郷は、日々学び、育み、発信し続ける人材を育成し、地域福祉の発展を目指します。
- 2).私たちは、ものづくりを通じて障害のある人と地域の共存を実現し、互いに豊かになる実践を目指します。
- 3).私たちは、社会的不利の状態におかれている人々の課題を解決するために、広範な人々をつながりをもとめ、ともに社会変革をめざします。
- 4).麦の郷は、全ての人々が平和で安心して暮らせる社会づくりのために人の輪を紡いでいきます。



# 安永健太さん事件を知っていますか？

「障害がある人の人権と地域生活を考える関西フォーラム」に参加して

2013年8月28日、きょうさん近畿・北陸ブロック主催の「障害がある人の人権と地域生活を考える関西フォーラム」にシンポジストとして参加させていただきました。

シンポジウムの前半は、父親や弟、弁護士から事件の真相を求めて裁判を起こした経緯が説明されました。2007年9月25日、安永健太さんが作業所から自転車帰宅途中、警察官から声をかけられパニックになり逃げたところを5人の警察官に取り押さえられたことや、その際に暴行を受けた疑いがあり理不尽な死に至ったことが報告されました。知的障害があるということが判明する前は、警察は薬物かお酒を摂取しているか決め付けていましたが、一転「保護」という言葉を使い出したことや、裁判の中で「自分は間違っていたかと思っていない。次にこのようなことがあっても、同じことをする。」と警官が証言したことなど、ご家族は2重3重にも辛い思いをされてきたことがよく分かりました。刑事裁判では「警察官が殴ったかどうか」だけが争われ「保護行為は適切であり、殴ったとは言えない」と、警察側は無罪となったのです。それを受け、ご家族は民事裁判を



起こすことを決意されました。「このままでは、健太が浮かばれない。今後も、第2、第3の事件が起きる。」という思いであったことでしょう。

後半は、弁護士や障害のある方のご家族とともに「障害のある人が地域で安心して暮らしていくために」何が必要かをシンポジウム形式で話し合いました。現在も障害のある人への無理解から警察に不審者扱いされたり不当な扱いをされる事件が絶えないことをうけ、警察や一般市民に対する啓発活動や専門家チームによる警察組織への働きかけがおこなわれていることが発表されました。ある家族会では、どういった行動がパニックになるのか、どう対応して欲しいのかといったパンフレットを作成しておられました。私は、福祉職員としてイベントを通じて啓発や、地道なネットワークを構築していくことの必要性について話しましたが、まだまだ不十分な活動であると感じさせられました。

恐怖と痛みの中、25歳という若さで世を去った安永健太さん。夢は警察官になることだったと聞き、胸が締め付けられました。「ひとりではなにもできなくても、たくさんの方が集まれば出来る」という言葉が、彼の口ぐせだったそうです。年内には民事裁判の判決が出るこの時期に、家族や友人など身近な人に「安永健太さん事件って知ってる？」と伝えていくことが、二度と同じような事件が起きないために私たちに出来る第一歩ではないでしょうか。(窪原)

きょうさん

# 第36回全国大会 IN 東北・ふくしま

9月21日〜22日の2日間、福島県郡山市にて「ここから『つたえ つなぎ はじめろ』」をテーマとするきょうさん第36回全国大会が開催されるので3度目。2011年4月10日、2012年3月19日そして今回と、目につく光景は確かに変化しつつある。しかし、復興とは単なる物質的なことだけではなく、目に見えないことも含めてである。震災関連死が1500名を超えている現実。理由は原発事故によるストレス、持病の悪化、将来への不安から自ら命を絶つなど。いまだに災害は、形をかえて人の命を脅かしている。紙面をつづいて、こう



した正しい情報をごまかすことも伝わるだろうか。それでも伝えなくてはいけない。「3・11を忘れない」という思

限状態はその社会の震災のみならず、私たちの社会のそこかしこに潜んでいる。福島をはじめとする被災地の復興がめざすもの、それは平時から障害のある人が安心して安全に暮らすことができる地域をつくることである。効率や速度主義などは、災害の際に命を奪うことがある。命を基準に、しなやかで強い社会づくりを福島の地が教えてくれている。(中原)

わされん

# 職員研修会に参加して

9月14日、15日と国民宿舎紀州路みなべにて職員研修会が行われました。教育研修委員長の溝西氏（なかよし作業所）が沢山の方々と交流を深めつなぐを強めることができ実りあるものとなるようにとの開会の挨拶に始まり、「障がい者の人権と地域生活について」きょうさん全国理事の鈴木氏が京都で行われた関西フォーラムの報告をして下さいました。

安永健太さんの事件を取り上げられ障がい者を取り巻く司法の場での認知度の低さ、またこの様な事件は他府県だけではなく私達の近くでも起こりうる可能性



がある事や警察官をはじめ裁判官までも知的障がい者への理解が低く、もっと知識を持たなければいけない事、他府県では警察官等に対して勉強会を開いたりして認知度を高めている事等を分かりやすくまた熱くお話になられ会場の雰囲気は一体感で溢れていました。その後はワークショップでの交流会です。各事業所の年齢、性別等色々な職員がグループになり日頃なかなか聞くことが出来ない事や、聞きたい事を話し合いました。まず仕事の事や仲間との楽しかった事とても嬉しかった事どんな意見が飛び出し「ストレスはどうしているの？」等はじめに会ったとは思えない位に話は盛り上がり時間が足りなくなっていました。

台風が近付きお天気も心配されていますが綺麗な夕日も見る事ができて思わず撮影会が... その後の懇親会でもワークショップとはまた別の事業所の方々と交流を持つことができました。一生懸命飲む人、食べる人(笑)おしゃべりもいっぱいできて楽しい時間を過ごすことができました。私は一日だけの参加でしたが、頑張っている方々が沢山いらっしやるのかと思うと大変心強く頑張らなくちゃと思う気持ちを再認識出来た一日になりました。(河本)



## 【麦の郷施設一覧】

(2013年10月現在)

	施設名	事業名	事業内容	住所	TEL	FAX
労働支援部	ソーシャル ファーム ピネル	就労継続支援A・B型	業務用リネン、医療関係白衣のクリーニング	和歌山市岩橋643	073-472-3122	073-475-0959
	けいじん舎	就労継続支援A型				
	そよかぜ食品		食品製造販売（コロック・おにぎりなど）と給食事業	和歌山市岩橋798-1	073-460-7753	同左
	カーメンテナンス	出張所	自動車の日常点検、洗車、整備など	和歌山市岩橋729-1	073-460-1610	同左
	風車 ふうの丘店	出張所	ファーマーズマーケットふうの丘内のオープンカフェ	紀の川市平野927	0736-75-2255	同左
	もぎたて農産加工所	出張所	農産加工品製造販売（手作り無添加ジャムなど）	紀の川市平野927	0736-75-4603	0736-75-5773
	麦の郷印刷 （営業・編集・印刷）	就労継続支援A・B型	名刺、チラシ、冊子、本などの印刷業全般	和歌山市府中1167-1	073-464-3707	073-464-3708
	（加工）			和歌山市直川601-4	073-460-6654	同左
	くろしお作業所	生活介護	農作業、生産物委託加工品の販売。下請け作業	和歌山市楠本39-1	073-462-2471	073-462-2478
	くろしお作業所分場	生活介護・就労継続支援B型	うどんやお菓子の製造販売	和歌山市里62-1	073-464-2117	073-464-2116
	め組	就労継続支援B型	ウエス（使い捨て雑巾）の製造販売	和歌山市出島31-8	073-474-6997	同左
	はぐるま共同作業所					
	製パン部 製菓部	生活介護・就労継続支援B型	パンや焼き菓子の製造販売	和歌山市岩橋643	073-474-6790	073-474-6730
	結い	自立訓練	体験学習（様々な経験を通して生活能力の向上をはかる）			
	はぐるま共同作業所 和の杜	就労継続支援B型	納豆、せんべい、ゼリーなどの製造販売	和歌山市岩橋798-1	073-471-4370	同左
	麦市	出張所	農産物直売所	和歌山市岩橋729-1	073-460-7109	同左
	はぐるま共同作業所 ラ・テール	就労継続支援B型	豆腐、おかき、ジュースなどの製造販売	和歌山市園部993-2	073-462-6648	同左
	むぎピース					
	かなで	自立訓練	体験学習（様々な活動を通して生活能力の向上をはかる）	和歌山市三沢町3-40	073-427-8149	073-427-8158
	ひらく	就労継続支援B型	お弁当、お惣菜、お菓子の製造販売			
むぎ太	出張所	うどんや定食を提供する食堂	和歌山市西旅籠町4	073-424-3678		
障害者就業・生活支援センター「つれもて」	障害者就業・生活支援センター事業	一般企業への就労支援	和歌山市美園町5-5-3（麦の郷総合支援センター）	073-427-3221		
生活支援部	麦の郷 和歌山生活支援センター	相談支援事業・地域活動支援センター	障害者の相談、生活支援	和歌山市西旅籠町4	073-423-2267	073-423-2268
	麦の郷 紀の川・岩出生活支援センター	相談支援事業・地域活動支援センター	障害者の相談、生活支援	紀の川市尾崎79-1	0736-78-2808	0736-78-2807
	ハートフルハウス 創	ひきこもり者社会参加支援センター	ひきこもり者の社会参加支援・コーヒー豆の焙煎、販売	紀の川市尾崎79-1	0736-67-7080	
	創-hajime-café		地域の人が集うコミュニティカフェ。自家焙煎コーヒーと地元野菜のランチを提供	紀の川市粉河853（山崎邸／木・金・土）	0736-60-8233	
	障害児者サポートセンター「麦の郷」	相談支援事業	障害者の生活、福祉制度などの相談	和歌山市里62-1	073-464-2117	073-464-2116
	麦の郷訪問看護ステーション	訪問看護	看護師による自宅訪問	和歌山市美園町5-5-3（麦の郷総合支援センター）	073-427-3313	073-427-3307
	ホームヘルプ麦の郷	居宅介護事業	ヘルパー派遣事業	和歌山市美園町5-5-3（麦の郷総合支援センター）	073-427-3316	
	麦の郷高齢者地域生活支援センター	居宅介護事業・デイサービス	介護保険などの相談支援、デイサービス	和歌山市岩橋798-1	073-472-8549	073-472-8563
	居住福祉事業所					
	麦の郷社員寮	共同生活援助・共同生活介護	11名定員のグループホーム	和歌山市六十谷319	073-462-2853	同左
	あいあいホーム		7名定員のグループホーム	和歌山市神波72-18	073-461-9302	同左
	プラネットホーム		7名定員のグループホーム	和歌山市六十谷478-4	073-462-8135	同左
	麦の芽ホーム		7名定員のグループホーム	和歌山市岩橋643	073-474-4636	073-474-4637
	ひびきの郷		6名定員のグループホーム	和歌山市里62-1	073-462-6988	073-462-6861
	ばーりーホーム		5名定員のグループホーム	和歌山市園部401-64	073-498-6001	同左
なでしこホーム	5名定員のグループホーム		和歌山市岩橋1507-1			
ホームきずな	7名定員のグループホーム		和歌山市岩橋1507-2	073-471-7789	同左	
こじか園	福祉型児童発達支援センター		就学前の障害や発達にまつぎがある子どもたちの保育、発達診断、相談の場	和歌山市上黒谷460-2	073-462-2895	073-462-0097
こじか相談室	発達相談		和歌山市岩橋729-6	073-474-0051	073-499-4652	
第二こじか園	福祉型児童発達支援センター	就学前の障害や発達にまつぎがある子どもたちの保育、発達診断、相談の場	和歌山市田尻155-1	073-476-4410	073-476-4415	
ほけっと	放課後等デイサービス	障害児の放課後活動、長期休暇の活動・余暇活動		073-461-3251	同左	
こじか親子教室	児童発達支援	障害児発見後の親子、家族への発達支援	和歌山市平井297	073-453-8285	073-460-1410	
事務所			和歌山市岩橋643	073-474-2466	073-474-4637	

# 「アート工房」ふたり展

〜多くの声に励まされました〜

むぎじーす・ひらく（就労継続支援B型事業）では惣菜や菓子の製造と食堂の経営をしています。また、今年4月からはアート工房を立ち上げ、メンバーはきたやまよしこさん、島津マナミさんの二人でスタートしています（9月現在3名）。「いろんな人に自分たちの作品を見てもらいたい」という二人の願いが形になり、このたび8月24日（土）〜30日（金）「ふたり展」をみその商店街のアートサポートセンターRAKUにて開催することができました。155名の来場者があり、特に初日と2日目は大雨だったのにこれほど大勢の方が足を運んでくださり、二人をはじめ関係者一同、大感激です。シフォンケーキ（二人の合作によるラベルをつけて包装しています）も合わせて販売しましたが、連日売り切れで製造が追いつかないほどでした。

今回の作品は二人ともパステル画が中心でしたが、同じ画材を使っても二人の表現はとても違っており、皆さん驚かれています。期間途中からは二人の提案で、固形パステルを削った粉を指につけて描く様子を見てもらったり、来場者の方



もやってみたりという展開もありました。二人の感想を紹介します。「みんなから『こんな柄のハンカチやワンピースほしいわあ』って言うってもらってうれしかった（きたやまさん）」「たくさんの人に見てもらえたいし、いろんな人と話す機会になった。『新聞に載ってたね』ってスパーの店員さんに声かけられてびっくりしたけどうれしかった（島津さん）」

二人とも疲れただろうけど、とてもいい表情の1週間でした。コツコツと創作を積み重ねながらも孤独感や不安も感じていた二人にとって、「ふたり展」をやりきった経験が大きな自信になったようです。今回の「ふたり展」は読売新聞和歌山版、ニュース和歌山、わかやま新報に掲載され、障害当事者からの発信を社会に広く伝える応援をいただきました。観に来てくださった皆様、関わってくださった皆様、心から感謝申し上げます。（江上）



## くまの作業所分場

### なかよし班 旅行

9月9日〜10日

9月9日から、なかよし班はUSSJ、明石市での明石焼き体験、アサヒ飲料工場見学、最後は須磨海浜公園で締めくくる一泊二日の旅に出かけた。

なんとといってもUSSJである。旅先を決める

もあつた。

「予約ができるのはありがたいけど、時間をつぶすのは大変だなあ。皆はしんどくて参ってしまつたのでは？」そんな不安があつたのだが、仲間たちは予約の時間までは嫌な顔もせず、楽しそうにアメリカ風のシヨップが立ち並ぶ街を歩き続けた。

1つめのアトラクションに予約した時もう一方のグループも予約をとりまわっていた。そのアトラクションが終わった後、一緒に廻った仲間達が「〇〇さん、アトラクション乗れたかなあ。」と何度も気にしていた。とても高い高さから落ちるアトラクションで思いきり絶叫し、普段見慣れない風景や雰囲気を楽しんでいる時も、普段一緒に働いている仲間が楽しめているかどうかが気になる。「楽しいことはみんな楽しんでみたい。」自然にそう思える。

普段は賑やか過ぎて、收拾がつかないことやぶつかることもある。それでも相手を思いやれるやさしいなかよし班。来年以降どこに行くにしても、「ああ、楽しかったなあ。また行ってみたいなあ。」と思われるような旅行にしていきたい。（佐々木）

## 「これからの和歌山の 精神保健福祉を考える シンポジウムⅡ」 に参加して

9月8日（土）ビッグ愛でわされん関係者、家族会、行政・教育関係、病院関係者100人

近い人が集まり2回目のシンポジウムが行われました。1回目が行われた経緯は、家族会に入会している親が心中を図り作業所に通所している娘を殺めてしまうという事件がおこり関係機関が集まったものでした。

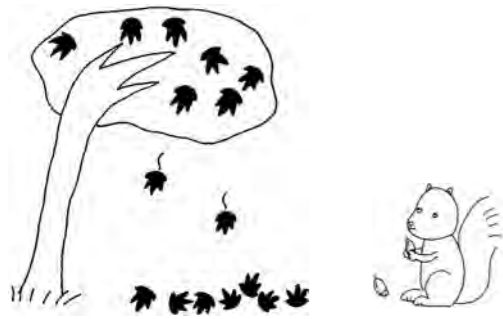


関係者にはとてもショックな出来事で衝撃が走りましたが、今のままでいけない、なんとかしなければという思いで開催された1回目。その時の話し合いで、きよつされん常務理事の藤井克徳さんの助言もあり家族が抱えている深い悩み、こころの奥底のしんどさを聞き取り、調査し報告書にまとめてみようという事になりました。

「和歌山県家族と精神障害者の生活実態調査アンケート集計」という冊子にまとめられています。（写真参照）

今回のシンポジウムではその調査の実態や課題を共有しながら、各関係機関の現状とこれからの方向性を探る、そんな話し合いの場だったと思います。

当事者の方からは、発症当時から今現在落着いた生活ができるように



時は他の候補地を圧倒する人気で決まった日本を代表する娯楽施設。しかし出発の前の週は、天気予報を見ても台風の影響で雨。雨具を身につけて場内を廻ることを覚悟していたが、当日は願ってもないような晴天に恵まれた。

私たちは絶叫マシーン等を時間内にできるだけ多く楽しむグループと、シヨを中心にくくりと楽しむグループに分かれて場内を廻った。予想外だったのは平日にもかかわらず、若い人を中心にとにかく人が多かつたこと。そのせいかお目当ての絶叫マシンは1時間待ちが当たり前。長ければ待ち時間が2時間以上の乗り物



なるまでに必要な支援、またはしてほしかった支援、これから受けてほしい支援を聞く事ができました。こころの病気が低年齢化している事で、教育現場もスクールソーシャルワーカーや準スクールソーシャルワーカーを配置する事で新たな課題に対応しようとしている事も分かりました。医療関係者からはアウトリーチの実践報告してくれました。単なる業務にならないように丁寧な支援の連続を心がけるとい言葉が印象に残っています。



記念講演で藤井さんが呉秀三は約100年前に精神障害者の救済は急務だと言っていたと。

この言葉の捉え方はさまざまですが、その思いとシンポジウムに参加して感じた事を踏まえて明日からの糧にしようと思えたシンポジウムでした。（木下）



## 3年目を迎えて 農産物直売所「麦市」



ように足を運んで下さります。「美味しかった。この前のお芋まだある？」と駆け込んで来られるお客様もいらっしゃいます。このように、商品のファンになって頂けることが私達の喜びであり、直売所は生産者とお客様を繋ぐ仕事なのだ実感します。作業所の直売所ならではの Only Oneの商品と、地場産にこだわった「美味しい野菜」をこれからもお届けしていきますので、よろしくお祈いします。食欲の秋11月からは、鳴門金時、紅あずま、安納芋と常時3種類の焼き芋を店頭にて販売します。ホックホクの焼き芋、ぜひ食べにいらして下さい。(富田)

麦市はお店を開いて早2年が経ちました。地域に根差した店作りをとの思いでスタートし、少しずつ定着してきました。ご高齢のお客様が「ここでお店してくれるから助かるわ。近いから買い物に来れる」と毎日の



## 住みなれた所で、 自分らしく幸せな生活をおくることを応援します

～精神や様々な障害のある方への訪問看護～

家庭や地域社会で、安心して日常生活を送ることができるよう定期的に、ご自宅や作業所などへ訪問し、お話を聴いたり健康管理や服薬のサポートをします。利用回数、利用料金など詳しくは、お問い合わせください。

各事業所の皆さんで、訪問看護を必要とされている方がおられましたらお気軽にご相談ください。



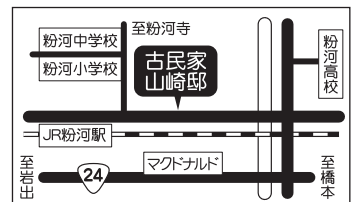
麦の郷訪問看護ステーション  
月～金 9:00～17:00 / TEL 073-427-3313

## 『古民家山崎邸と9つの表現』

～現代アート作家9人によるアート展～  
パート2

期 日 2013年11月13日(水)～24日(日)  
10:00～16:00 (最終日15:00まで)  
場 所 紀の川市粉河853  
連絡先 0736-78-2808  
(麦の郷紀の川・岩出生活支援センター)  
後 援 社会福祉法人一麦会  
NPO法人紀州粉河街づくり塾

期間中は、麦の郷ハートフルハウス創が経営する、創-HAJIME-CafeもOPENします。



同時開催 「桃郷支援センターの仲間たちの作品展」



むきのひと



麦の郷訪問看護ステーション  
浅野 浩美

皆様こんにちは。お元気ですか？風邪などひいていませんか？へこたれずに居てくれていますか？私が「麦の人」の仲間入りをしてから丸3年が経ちました。え！うそ？まだ3年？！と数え直してしまう程、この3年間は実に濃厚で充実した日々を送らせていただきました。ここに来た当初は「これで良いのか…」と葛藤しながらも、日々の業務をこなしていく事で精一杯でした。ようやく今、「本当に必要な支援とは何か」という事を、同じ方向を見て一緒に考えていける仲間と共にスタートラインに立てている感じです。看護師はどうしても「できないこと」を問題点として着目してしまいがちです。そうではなく「その人が持っている力」を伸ばす、引き出すための支援を考えていきたいと思っています。そして、皆様が生きているそれぞれの場で、「自分らしく、幸せに暮らし続けていけるように」しつこく、そっと、そばに居させてもらえたらと願っています。

何年経っても、相変わらずどっぷり凹み、しっかり悩むこともあります。でも、わが訪問看護ステーションの個性的で底抜けに明るいスタッフ4人と共に、きっちり振り返りすつくと立ち上がったならニッと笑って走っていきます。私たちが待っていてくれる(??)皆様のところへ。一緒にぼちぼちいきましょう。これからもよろしくお願いします。

平成26年(2014年)  
年賀状印刷  
ご注文受付中!!  
ご注文はFAXでもOK!

年賀状印刷  
承ります

麦の郷印刷  
TEL  
073-464-3707  
FAX  
073-464-3708